



札幌みらい塾 2018

ACFアートサロン in わくわくホリデーホール

# 介護を演じる

*Kaigo wa Enjiru*

<日時>

6月12日(火)

18:30開演(18:00開場)

<会場>

わくわくホリデーホール

(札幌市民ホール)2F 第1会議室

札幌市中央区北1条西1丁目

<内容>

認知症の人とのコミュニケーションを考える

レクチャー&ワークショップ

<料金>

一般 1,500円

学生・ACF会員・V-net会員 1,000円

※メールや電話でのご予約の方は当日精算  
(学生証、会員確認)となります。

<ご予約・お問合せ>

ACF札幌芸術・文化フォーラム

電話:090-3395-9054 FAX:011-271-6748 メール:sapporoacf@gmail.com

公式サイト:www.sapporoacf.org/



札幌みらい塾 2018  
ACFアートサロン in わくわくホリデーホール

# 介護を演じる

Kaigo wa Enjiru



演劇体験を通じて楽しみながら  
認知症の人とのコミュニケーションを考える  
公開ワークショップです。  
ワークショップ参加者には、  
認知症の人と介護者を交互に演じて、  
認知症の人の言動を否定せずに  
受け入れるコミュニケーションや、  
言動を否定されたときの  
認知症の人の気持ちを疑似体験してもらいます。  
実際に身体を使って演じることで、  
認知症ケアの気づきやヒントを  
講師と参加者間で共有していきます。

1983年栃木県宇都宮生まれ。桜美林大学文学部総合文化学科卒。演出家、劇作家、俳優、介護福祉士。「老いと演劇」OiBokkeShi主宰。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2010年より特別養護老人ホームの介護職員として勤務。2012年より岡山県に移住。介護と演劇の相性の良さを実感し、地域における介護と演劇の新しいあり方を模索している。認知症ケアに演劇手法を活かしたワークショップを全国各地で実施。これまでにOiBokkeShiで発表した作品は、『よみちにひはくれない』(2015)、『老人ハイスクール』(2015)、『BPSD:ぼくのパパはサムライだから』(2016)、『カメラマンの変態』(2017)、『ポータブルトイレシアター』(2018)。TVドキュメンタリー番組『よみちにひはくれない～若き「俳優介護士」の挑戦～』が第24回FNSドキュメンタリー大賞優秀賞受賞。



菅原直樹(すがわら・なおき)

## 「老いと演劇」OiBokkeShi

俳優で介護福祉士の菅原直樹を中心に、2014年に岡山県和気町にて設立。「老人介護の現場に演劇の知恵を、演劇の現場に老人介護の深みを」という理念のもと、高齢者や介護者とともに作る演劇公演や、認知症の人との関わりを考えるワークショップ等を実施。演劇という、太古から営々と築き上げられた芸術活動によって、地域社会に「老い」「ボケ」「死」の明るい未来をあぶりだしたいと願っている。

## ACF札幌芸術・文化フォーラムとは

創造都市さっぽろの芸術・文化の未来を拓こうと、2007年春に市民有志が立ち上げた団体。市民と芸術家そして行政、企業を結ぶネットワークを形成し情報を発信しています。市民の協働による芸術・文化のあふれるまち作りを目指す。

2018年6月12日(火) 18:30 START

会場

わくわくホリデーホール(札幌市民ホール)2F 第1会議室  
札幌市中央区北1条西1丁目